

日本陸上競技連盟からのお知らせ

目 次

■活動報告

評議員会・理事会報告

2022年6月12日(日)に第76回理事会、2022年6月28日(火)に定時評議員会をそれぞれ開催いたしました。

キッズデカスロンチャレンジ実施報告

新型コロナウイルスの影響で2年間実施できなかった、キッズデカスロンチャレンジを今年度2回にわたり開催することができたので、報告いたします。

■大会観戦ガイド

ホクレン・ディスタンスチャレンジ2022

全国高等学校定時制通信制体育大会 第57回陸上競技大会

令和4年度全国高等学校総合体育大会陸上競技大会 秩父宮賜杯

第75回全国高等学校陸上競技対校選手権大会

■事務局からのお知らせ

オレゴン2022世界選手権

男子20名・女子17名の計37名が新たに日本代表に決定!

オレゴン世界選手権日本代表会見

レポート:世界の頂点を目指し、意気込みを語る

#リレフェス

第二弾種目&キービジュアル発表!参加者&ボランティア募集開始!

個人情報のご共同利用について

information

- ・日本陸連登録料の設定について

<https://www.jaaf.or.jp/about/fee/>



- ・個人情報の共同利用について

<https://www.jaaf.or.jp/news/article/16577/>



- ・シューズ規則/広告規定について

<https://www.jaaf.or.jp/about/resist/technical/>



- ・陸上競技場、長距離競走路の認定について

<https://www.jaaf.or.jp/about/resist/shisetsu/>



- ・代表選手派遣大会選考要項 2022年度

<https://www.jaaf.or.jp/news/article/15231/>



- ・代表選手派遣大会選考要項 2023年度

<https://www.jaaf.or.jp/news/article/15943/>



- ・代表選手派遣大会選考要項 2024年度

<https://www.jaaf.or.jp/news/article/16334/>



- ・アンチドーピング/鉄剤注射の防止

<https://www.jaaf.or.jp/about/resist/medical/>



- ・【オレゴン世界選手権】エントリースタンダード

https://www.jaaf.or.jp/files/upload/202108/17_171714.pdf



評議員会・理事会報告

第76回理事会

日時：2022年6月12日（日）

8時57分～10時45分

休憩 10時45分～10時53分

再開 10時53分～11時29分

場所：都シティ大阪天王寺

【議事内容】

理事総数30名中出席者29名にて、理事会の成立を鈴木事務局長が報告。尾縣会長が挨拶し、引き続き、議事進行に入る。

〈協議事項〉

1. 第11期事業報告・収支決算

風間専務理事より事業報告について、室城財務委員長より収支決算について、小林監事より監査報告について、それぞれ資料に基づき説明があり、ともに原案通り承認された。（資料1及び本連盟WEBサイト<https://www.jaaf.or.jp/pdf/about/rikuren/disclosure/11report.pdf>参照）

2. 第11期決算における収支相償の対応策

鈴木事務局長より資料に基づき説明があり、第11期決算における収支相償の対応策として、特定費用準備資金の国際競技会開催引当預金として3億7,900万円積み立てることが原案通り承認された。

3. 第107回日本陸上競技選手権大会開催日程・会場について

平野事業部長より資料に基づき説明があり、2023年度に開催する第107回日本陸上競技選手権大会開催日程・会場が原案通り承認された。

〔第107回日本陸上競技選手権大会〕

第39回U20日本陸上競技選手権大会〕

○開催日程

2023年6月1日（木）～6月4日（日）

○開催会場

大阪府大阪市・ヤンマースタジアム長居

〔第107回日本陸上競技選手権大会・混成競技〕

第39回U20日本陸上競技選手権大会・混成競技〕

○開催日程

2023年6月10日（土）～6月11日（日）

○開催会場

秋田県秋田市・秋田県営陸上競技場

4. ブダベスト2023世界陸上競技選手権大会

マラソン日本代表選手選考方針

山崎強化委員長より資料に基づき説明があり、ブダベスト2023世界陸上競技選手権大会マラソン日本代表選手選考方針が原案通り承認された。（本連盟WEBサイトhttps://www.jaaf.or.jp/files/upload/202206/13_145642.pdf参照）

資料1

公益財団法人日本陸上競技連盟 第11期 収支決算書（対前年度） （2021年4月1日から2022年3月31日まで）

（単位：円）

科目	第11期決算額	第10期決算額	増減
経常収益			
1. 基本財産運用収益	6,454,101	6,224,400	229,701
2. 登録料受入収益	251,743,500	24,078,300	227,665,200
3. 加盟金受入収益	4,700,000	0	4,700,000
4. 受取寄付金	1,010,666	16,301,119	△ 15,290,453
5. 受取委託金・助成金	182,461,147	114,910,842	67,550,305
6. 事業収益	1,292,334,934	834,178,697	458,156,237
7. その他事業収益	28,390,977	35,485,190	△ 7,094,213
8. 雑収益	4,091,538	5,033,470	△ 941,932
経常収益計	1,771,186,863	1,036,212,018	734,974,845
経常費用			
9. 事業費	1,280,867,301	1,070,256,507	210,610,794
10. 管理費	111,591,193	95,001,515	16,589,678
経常費用計	1,392,458,494	1,165,258,022	227,200,472
当期経常増減額	378,728,369	△ 129,046,004	507,774,373

5. パリ2024オリンピック競技大会

マラソン日本代表選手選考方針

山崎強化委員長より資料に基づき説明があり、パリ2024オリンピック競技大会マラソン日本代表選手選考方針が原案通り承認された。(本連盟WEBサイトhttps://www.jaaf.or.jp/files/upload/202206/13_145528.pdf参照)

6. 杭州2022アジア競技大会の延期に伴う

マラソン代表選手の内定解除と再選考について

山崎強化委員長より資料に基づき説明があり、杭州2022アジア競技大会の開催延期に伴い、既に決定しているマラソン代表選手の内定を解除し、延期後の大会開催期日決定後、改めて選考要項を作成し、選考を行うことが原案通り承認された。

7. 特別寄付金の受領について

鈴木事務局長より資料に基づき説明があり、一般財団法人東京マラソン財団より特別寄付金を受領することが原案通り承認された。

〈報告事項〉

1. 2023年の日本グランプリシリーズについて

平野事業部長より資料に基づき説明があり、2023年からの日本グランプリシリーズの新たな取り組みとして加盟制度を導入することが報告された。既存の指定競技会、新規競技会を含めて公募し、審査の上、加盟競技会を決定する。加盟権利、加盟要件、募集内容等の詳細は改めて理事会で提案する。また、加盟要件はワールドアスレティックス(WA)の新制度、WRK(ワールドランキング・コンペティションズ)を踏まえたものとする。

2. ワールドランキング・コンペティションズ

ワールドアスレティックス・レフェリー新制度について

平野事業部長より資料に基づき報告された。報告された内容は下記の通り。

〔ワールドランキング・コンペティションズ(WRK)〕

2023年1月より、ワールドアスレティックス(WA)関連競技会の資格記録(オリンピック、世界選手権、U20世界選手権などの参加資格、世界記録など)やワールドランキングの対象になるのはWRK対象大会のみとなる。2023年1月からスタートし、大会開催の60日前までに申請が必要となる。実質的には、2022年11月からWAルールでの申請が求められることになる。ロードはWA認証のコース検定が必要、競歩は3名以上の国際競歩審判員(IRWJ)が必要(U20以下を除く)である。対象大会にするには事前オンライン申請のうえ、本連盟からWAに1大会ごと申請料を支払う。申請方法や対象

大会主催者が支払う申請料は別途検討。

〔ワールドアスレティックス・レフェリー〕

WAツアー(コンチネンタルツアー、混成、競歩、クロカンなど)・WRK・WAが管轄する大会の範囲が広がったことにより幅広いカテゴリーの大会で、高い審判技術とインテグリティを有する審判員が必要(増員)になっている。そこでWAは現行審判員制度をWorld Athletics Refereeという新制度に移行することとなった。WAは、WRK・日本選手権の審判長・主任クラスはWorld Athletics Referee資格を有する審判で構成することを目指している。新制度は、ナショナル、バッジ、ディプロマ、トップリストの4カテゴリーに分類され、年1回(2022年度は秋開催予定)のWA主催の試験に合格しなければならない。新制度バッジ以上の審判長・主任を委嘱すれば記録は対象として認められる。(対象部署・役職・人数は現時点で明確には定められていない)※WAは決して激変的な改革ではなく、これらの養成制度は従来より各国や各エリアの上級競技役員養成制度であるとしている。

〔次回理事会までの検討課題〕

- ・World Athletics Refereeの取得対象者
- ・WRKの対象大会(World Athletics Refereeの合格者数とも関係)

3. 日本オリンピック委員会

2022年度コーチ等設置事業対象者

鈴木事務局長より資料に基づき、日本オリンピック委員会(JOC)の2022年度コーチ等設置事業対象者が報告された。

定時評議員会

日時: 2022年6月28日(火)

13時57分~15時41分

場所: JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE 9階

日本陸上競技連盟会議室

〔議事内容〕

評議員総数20名中出席者13名にて、評議員会の成立を鈴木事務局長が報告。松本評議員会副議長が挨拶し、引き続き、議事進行に入る。

〈協議事項〉

1. 第11期事業報告・収支決算

風間専務理事より事業報告について、室城財務委員長より収支決算について、細田監事より監査報告について、それぞれ資料に基づき説明があり、ともに原案通り承認された。(資料1及び本連盟WEBサイト<https://www.jaaf.or.jp/pdf/about/rikuren/disclosure/11report.pdf>参照)

キッズデカスロンチャレンジ 実施報告

指導者養成委員会 普及ディレクター 岸 政智

新型コロナウイルスの影響で2年間実施できなかった、キッズデカスロンチャレンジを今年度2回に渡り開催することができたので、ここに報告する。5月8日(日)セイコーゴールドングランプリ2022東京(国立競技場)、6月11日(土)・12日(日)第106回日本陸上競技選手権大会(大阪・ヤンマースタジアム長居)にて開催した。

キッズデカスロンチャレンジは、WA(世界陸連)が推奨する子どものフィジカルリテラシーの向上を目的とするキッズアスレティックスというプログラムをベースにしている。それを指導者養成委員会が、多くの種目を体験できるようにとの考えで、キッズ・デカスロン(10種目)チャレンジと銘打った。これらは、スポーツの基本である「走る」、「跳ぶ」、「投げる」を楽しく行うことをコンセプトとしている。

残念ながら競技場外のスペースで実施の為、安全面の配慮から今回は、「10m走チャレンジ」、「トリプルジャンプ」、「ターゲットスロー」の3種目の実施となった。

参加者へのアプローチとして「10m走チャレンジ」では学年毎のランキングを掲示、「トリプルジャンプ」では走幅跳の日本記録を掲示、「ターゲットスロー」ではターゲット幕に向かって投げるなど、記録への挑戦や楽しさに繋がるよう心掛けた。

ゴールドングランプリでは、WAが今年制定した「World Kids' Athletics DAY^{*1}」(5月7日)とタイアップしたイベントとして実施をした。その結果、255名と数多くの方が参加し賑わった。参加した子供たちにはオリジナル缶バッジをプレゼントした。また、WAの公式SNSでも開催の様子が紹介された。

日本選手権では大阪市の協力のもとキッズデカスロンチャレンジの告知ポスターとチラシを近隣小学校21校に約11,000枚を配布した。

その結果、開催初日の11日は残念ながら雨のため途中で中止(29名参加)をしたが、12日は天候が回復し254名の子どもが来場し、その多くが陸上競技未経験者であった。

GGP時よりも応援や写真撮影をする保護者・引率者の方専用のレーンを作り参加者と距離を縮められるようレイアウトを工夫しマイクパフォーマンスの中にイベント概要や上達のコツ等を盛り込み周知をした。

夢中になって挑戦する子やコツをつかんで記録向上を目指して取り組む子が多かった。開催中、スタッフ(指導者養成委員や大学生補助員)は参加してくれた子どもたちへ時間の許す限り指導にあたった。

WAではこのような活動を全世界で展開しており、本連盟でも今後、この活動を地域や学校の授業等で実施できるように本事業をブラッシュアップしていく予定である。

次回は10月1日(土)~2日(日)の日本選手権リレー兼リレーフェスティバルでも計画・調整しており詳細は今後、日本陸連公式サイトにてご案内予定である。

最後に、本事業に関わっていただいた開催陸上競技協会の皆様と、当日元気に参加してくれた子どもたち、保護者、コーチ、大阪市経済戦略局スポーツ部スポーツ課の皆様のご協力のおかげと心から熱く御礼申し上げ、報告とさせていただきます。

各大会や各陸協主催のイベント等でデカスロンチャレンジを計画したい場合は、下記にご相談ください。

【問い合わせ先】

日本陸連 指導者養成課

TEL : 050-1746-8410 mail : coach@jaaf.or.jp

*1…陸上競技の力を活用して世界中の若者たちが生涯スポーツに積極的かつ楽しく取り組めるよう、WAが成長戦略の一環として2022年に制定した。



実際の会場風景①



実際の会場風景②

大会観戦ガイド

ホクレン・ディスタンスチャレンジ2022

▼期日・会場：

第5戦 千歳大会 千歳市青葉陸上競技場 7/16 (土)

▼種目：

第5戦 千歳大会

【男子】800m、1500m、5000m、3000mSC

【女子】600m、1500m、3000m、5000m、3000mSC

▼問合せ先：

日本陸連事務局 肥田 里枝、工藤 裕美、廣瀬 静香

E-mail: hokurendc@jaaf.or.jp

▼大会ページ：

<https://www.jaaf.or.jp/competition/detail/1712/>



写真：フォート・キシモト

全国高等学校定時制通信制体育大会 第57回陸上競技大会

▼期日：令和4年8月1日(月)～8月3日(水)

▼会場：駒沢オリンピック公園総合運動場 陸上競技場

〒154-0013 東京都世田谷区駒沢公園1-1

▼競技種目：

(1) 男子の部 (15種目)

100m・200m・400m・800m・1500m・5000m・
400mH・3000mSC・4×100mR・4×400mR
走高跳・走幅跳・三段跳・砲丸投・円盤投

(2) 女子の部 (11種目)

100m・200m・400m・800m・3000m・100mH・
4×100mR・走高跳・走幅跳・砲丸投・円盤投

▼問合せ先：全国高等学校定時制通信制陸上競技大会事務局

〒125-0051 東京都葛飾区新宿3丁目14番1号

東京都立葛飾商業高等学校内 事務局長 益本光章

事務局携帯電話 070-6458-2364

※問い合わせは、必ず各都道府県の責任者が行ってください。

令和4年度全国高等学校総合体育大会陸上競技大会

秩父宮賜杯第75回全国高等学校陸上競技対校選手権大会

▼期日：

(1) 開始式 令和4年8月3日(水) 8時30分

(2) 競技 令和4年8月3日(水)～7日(日) 5日間

(3) 表彰式 令和4年8月7日(日) 競技終了後

▼会場：鳴門・大塚スポーツパークポカリスエットスタ

ジアム 〒772-0017 鳴門市撫養町立岩字四枚61

TEL 088-685-3131

▼種目：

(1) 男子

100m・200m・400m・800m・1500m・5000m・
110mハードル(1.067m)・400mハードル(0.914m)・
3000m障害物・5000m競歩・4×100mリレー・
4×400mリレー 走高跳・棒高跳・走幅跳・三段跳・
砲丸投(6.000kg)・円盤投(1.750kg)・ハンマー投
(6.000kg)・やり投(800g)・八種競技(以上21種目)

(2) 女子

100m・200m・400m・800m・1500m・3000m・
100mハードル(0.838m)・400mハードル(0.762m)・
5000m競歩・4×100mリレー・4×400mリレー・
走高跳・棒高跳・走幅跳・三段跳・砲丸投(4.000kg)・
円盤投(1.000kg)・ハンマー投(4.000kg)・
やり投(600g)・七種競技(以上20種目)

▼問合せ先：令和4年度全国高等学校総合体育大会

鳴門市実行委員会事務局 陸上競技担当

〒772-0003 徳島県鳴門市撫養町南浜字東浜31-36

鳴門市教育委員会高校総体推進室内

TEL 088-684-1950 FAX 088-684-0633

E-mail 2022soutai@city.naruto.i-tokushima.jp

▼大会ページ：

<https://www.jaaf.or.jp/competition/detail/1658/>



事務局からのお知らせ

◆◆オレゴン2022世界選手権 男子20名・女子17名の計37名が新たに日本代表に決定！◆◆

2022年7月15日(金)～7月24日(日)に開催される「オレゴン2022世界陸上競技選手権大会」に派遣する日本代表選手につきまして、6月29日(水)にワールドアスレティックスから発表された、個人種目並びにリレー種目の出場資格の確定を受け、新たに男子20名・女子17名の37名が日本代表に決定いたしましたので、お知らせいたします。

▼特設サイト

<https://www.jaaf.or.jp/wch/oregon2022/>

▼日本代表選手団はこちら

https://www.jaaf.or.jp/files/upload/202207/01_133608.pdf

▼詳細はこちら

<https://www.jaaf.or.jp/news/article/16628/>

◆◆オレゴン世界選手権日本代表会見 レポート：世界の頂点を目指し、意気込みを語る◆◆

日本陸連は、6月13日、大阪市内のホテルで記者会見を開催。前日までの「第106回日本陸上競技選手権大会」において内定条件を満たし、オレゴン世界選手権日本代表選手に決定した競技者を改めて発表、その後、代表選手を招いての会見を行いました。

▼詳細はこちら

<https://www.jaaf.or.jp/news/article/16580/>

◆◆#リレフェス 第二弾種目&キービジュアル発表！参加者&ボランティア募集開始！◆◆

本年、10月1日(土)～2日(日)に国立競技場で初めて開催される「みんなであつなごうリレフェスフェスティバル2022」のキービジュアルとイベント概要が決定しました！

▼詳細はこちら

<https://www.jaaf.or.jp/news/article/16624/>



◆◆個人情報の共同利用について◆◆

本連盟は、JSCが運営するHPSC Communication Portal [CoPortal (コポータル)] に登録しています。[CoPortal (コポータル)] において、本連盟とJSCとの間で、JOCへ申請している強化対象指定の選手・コーチ等の個人情報(氏名、性別、年齢、所属団体、区分など)の共同利用を行います。

▼詳細はこちら

<https://www.jaaf.or.jp/news/article/16577/>

▼JSC公式サイト

<https://www.jpnsport.go.jp/hpsc/business/ourwork/tabid/1785/Default.aspx>

陸連時報編集委員

◇編集委員

尾縣 貢 (陸連会長)
黄倉 寿雄 (陸連副会長)
瀬古 利彦 (陸連副会長)
有森 裕子 (陸連副会長)
風間 明 (陸連専務理事)
山崎 一彦 (陸連強化委員長)
鈴木 英穂 (陸連事務局長)
牧野 豊 (陸上競技マガジン編集長)

◇時報編集室責任者

石井 朗生
◇時報編集担当
日本陸連 広報課

陸連時報編集室

〒160-0013
東京都新宿区霞ヶ丘町4-2
JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE 9階
日本陸上競技連盟内
TEL : 050-1746-8410
FAX : 050-3588-1869